



令和4年度 サッカーキャンプ 誘致戦略推進事業

実施報告書  
(概要版)

沖縄県

令和4年度 サッカーキャンプ 誘致戦略推進事業  
実施報告書  
(概要版)

目次

1. 概要-誘致活動について	2P
2. 決定状況	7P
3. キャンプ地の情報発信について	11P
4. サッカーキャンプ誘致における経済効果算出について	18P
5. 総括	19P

## 1. 概要-誘致活動について

沖縄県におけるサッカーキャンプ誘致事業は本年度で13年目。

平成22年度、わずか7チームの実施から始まった本事業も、各自治体・宿泊施設および関係団体との連動した受け入れ体制の構築、更には各グラウンドの芝の良質化を目的とした「芝人養成事業」、キャンプ受け入れグラウンド(市町村)を拡大しキャンプ実施クラブの増加を目的とした「受入市町村促進事業」の効果もあり、平成30年度には実施クラブの数を28まで拡大させ、その後も順調に一定数の誘致を実現させることが出来た。

また近年は来場促進を目的とした「サッカーキャンプガイドブック」の発行や公式ホームページにおける多言語化対応など、情報発信にも力を入れることによりサッカーキャンプを通じて沖縄ブランドの新たな価値向上を図ってきた。

しかしながら令和2年度及び3年度のキャンプ期間においては世界中で爆発的な感染拡大を見せた新型コロナウイルスの影響により、海外クラブの実施が0になるなど誘致数が減少。併せて2年連続の「無観客開催」となった。

今年度は誘致クラブ数の増加(29クラブ以上の誘致実現)、海外クラブの再誘致、情報発信の強化による沖縄県内への更なる観光客の増加(誘客)、2年ぶりの有観客開催を目的とし事業を開始した。

また新たな試みとしてサッカーキャンプ事務局として自治体や県内関係団体と連携し実施クラブのホームゲーム会場での沖縄キャンプPRも実施し、沖縄県への来訪調査アンケートも行った。

2022サッカーワールドカップカタール大会が12月に開催され、キャンプ開催地への誘客への期待も高まる中、国内外のクラブと調整を行ってきた。

その中でも懸念事項・課題事項も抱えた。これまでキャンプ受け入れを実施してきた2施設がグラウンドの改修工事(タピック県総ひやごんスタジアム)、韓国プロ野球球団の再誘致により使用不可(赤間運動公園サッカー場)、また2023シーズンのJリーグの日程とKリーグ(韓国)、Cリーグ(中国)の日程が大幅にずれ込み、国内クラブ同士でのキャンプ希望期間が重複、反対に海外クラブは「希望期間でJクラブと試合が出来ない」ことからキャンプ実施を断念するなどの事案もあり、最終的に今年度の実施クラブ数はJリーグ16クラブ、WEリーグ2クラブ、なでしこ1クラブ、大学男子4クラブ、大学女子1クラブの計24クラブの実施に留まった。

誘致するクラブに関しては、これまで同様に各市町村の意向も踏まえ、これまで例年沖縄でキャンプ実施をしているクラブから優先的にスケジュールを確認し、新規クラブの誘致を目指した。

なお本年度事業開始当初から誘致活動においては効率的、効果的なアプローチを図るべく次のような優先順位を設けた。

1) 前年度（令和3年度）実施クラブ（国内）の確定

16クラブ（Jクラブ15、WEリーグ1）の継続実施の確定

<b>【国内クラブ】 16クラブ（J15クラブ+WEリーグ1クラブ）</b>		
FC東京	J1	13回目
サガン鳥栖	J1	13回目
ガンバ大阪	J1	10回目
北海道コンサドーレ札幌	J1	10回目
川崎フロンターレ	J1	9回目
名古屋グランパス	J1	9回目
浦和レッズ	J1	8回目
ジェフユナイテッド市原・千葉	J2	13回目
水戸ホーリーホック	J2	9回目
大宮アルディージャ	J2	8回目
京都サンガF.C.	J2	6回目
V・ファーレン長崎	J2	6回目
ベガルタ仙台	J2	6回目
FC町田ゼルビア	J2	5回目
ザスパクサツ群馬	J2	3回目
三菱重工浦和レッズレディース	WEリーグ	2回目

昨年度（令和3年度）キャンプ実施直前に断念した4クラブ（Jクラブ4）

<b>昨年度、キャンプ実施直前に断念したJリーグ4クラブ</b>		
ヴィッセル神戸	J1	2年ぶり9回目
セレッソ大阪	J1	9年ぶり2回目
ファジアーノ岡山	J2	2年ぶり4回目
ヴァンラーレ八戸	J3	2年ぶり5回目

これらクラブに関しては昨年実施の16クラブは全て継続実施。  
 昨年度、まん延防止重点措置の適用により直前で実施を断念した4クラブについては  
 ヴィッセル神戸のみ再誘致を実現させることが出来た。

## 2) その他Jクラブ 新規&過去沖縄キャンプ実施クラブの復活誘致

過去に沖縄キャンプを実施しながら、昨年度、受入側の事情やクラブ側の事情等により  
 沖縄キャンプを見送ったJクラブに対してアプローチ。再誘致を目指す。キャンプ実施に  
 あたって地元の子供達へのサッカー教室はもちろん、たくさんのメディアやサッカーファ  
 ンなどに注目していただくよう海外クラブとのトレーニングマッチも実現出来るよう誘致  
 交渉の段階でクラブ側にリクエストを出していく。

昨年度キャンプ実施を断念した3クラブ		
横浜・F・マリノス	J1	2年ぶり5回目
湘南ベルマーレ	J1	2年ぶり2回目
ギラヴァンツ北九州	J2	2年ぶり3回目

上記3クラブは1昨年度に実施をしたものの昨年度、様々な理由により実施を見送っ  
 たクラブである。再誘致を目指しアプローチをかけたが結果的に3クラブとも実施を実  
 現させることは出来なかった。

他に今年度はサポーターの更なる誘客を見据え、新規クラブのターゲットとして沖縄  
 発着就航路線（直行便）の活用を見込んだJクラブの誘致も目指した。

沖縄発着就航路線（直行便）の活用を見込めるJクラブ		
ジュビロ磐田	J1	静岡空港
ツエーゲン金沢	J2	小松空港
カタレ富山	J3	小松空港
FC今治	J3	松山空港
鹿児島ユナイテッドFC	J3	鹿児島空港

新潟、小松、静岡、広島、松山、鹿児島などの就航路線の活用を見込めるクラブから  
 可能性を探り、主に上記5クラブにアプローチした。





\*来沖視察の際にはクラブ側が求める日程や環境等を踏まえ、グラウンドとホテル候補を事務局で選定し、対応を行った。写真は視察対応の様子（2022年10月27日）

### 3) 海外クラブ

経済効果への寄与を見据え、希望宿泊期間の長いクラブや、また2022年がワールドカップイヤーという点も踏まえて代表選手が在籍しているクラブなど、キャンプ地への観光誘客も見込める海外クラブをターゲットに誘致活動に取り組んだ。

<b>主に交渉を行った海外クラブ</b>	
<b>全北現代</b>	<b>K1</b>
<b>蔚山現代</b>	<b>K1</b>
<b>浦項スティーラース</b>	<b>K1</b>
<b>大邱FC</b>	<b>K2</b>
<b>成都蓉城足球倶楽部</b>	<b>C1</b>
<b>山東泰山足球倶楽部</b>	<b>C1</b>

主に上記のクラブと調整を図ったが、全北、蔚山、浦項、大邱、成都の5クラブはグラウンドおよび宿泊ホテルの調整はついたものの、それぞれの国内リーグ開幕が、Jリーグ開幕と大きくずれ込んでおり、希望する2月中旬から下旬の時期には既にJクラブがおらず、トレーニングマッチが出来ないことから実施を断念した。

#### 4) 女子クラブ

これまで実施した WE リーグのクラブや、なでしこリーグのクラブを中心に誘致活動を実施し、地元沖縄の女子クラブとのトレーニングマッチの実現を目指した。実際には 2 年連続で三菱重工浦和レッズレディースがキャンプを実施。

また同じ WE リーグで、他県でのキャンプ実施を検討していた「大宮アルディージャ VENTUS」の誘致に成功。なでしこリーグに昇格したばかりの「FC ふじざくら山梨」も誘致。例年より女子サッカーの受け入れをすることが出来た。

#### 5) 大学チーム

関東及び関西の大学を中心に誘致活動を実施し、地元の大学チームも加えたカップ戦を開催。1～2 月期のトッププロチームの実施が終わった 3 月ごろに開催することで、グラウンドの確保に伴う大会の実施、宿泊施設への経済効果へも貢献できるよう努めた。

最終的に大会への参加誘致で県外から 11 チーム、うち大会に付随した形で 2 チームがキャンプを実施。大会とは関係なくキャンプを実施するのが 3 チームとなった。

#### **大会に付随した形（大会前後）でキャンプを実施した大学**

<b>慶應義塾男子サッカー部</b>	<b>関東</b>
<b>城西国際大学</b>	<b>関東</b>

#### **大会と関係なくキャンプを実施する大学**

<b>札幌大学</b>	<b>北海道</b>
<b>日本体育大大学</b>	<b>関東</b>
<b>慶應義塾女子サッカー部</b>	<b>関東</b>

以上、今年度も県内の受け入れ市町村や宿泊施設に加え、沖縄県サッカー協会や沖縄県スポーツ協会、海外クラブの窓口となる各仲介人（エージェント）等と情報共有を行いながら誘致活動を展開。

沖縄でのキャンプ実施希望クラブの意見・要望を事前に集約し、そのクラブにあった場所や宿泊施設を事務局で選定。沖縄県・各市町村担当部署・宿泊施設と連携を図り事前視察の対応等を行った。必要に応じてクリーニング業者やバス会社なども紹介、調整を行った。

## 2. 決定状況

### 令和4年度 沖縄サッカーキャンプ 実施一覧

1. FC東京 (J1) <選手・参加人数 約60名>  
期間：1月9日～1月24日 (16日間)  
場所：かいぎんフィールド国頭
  
2. 北海道コンサドーレ札幌 (J1) <選手・参加人数 約60名>  
期間：1月10日～2月4日 (26日間)  
場所：金武町陸上競技場
  
3. ヴィッセル神戸 (J1) <選手・参加人数 約70名>  
期間：1月10日～1月22日 (1次キャンプ：13日間)  
場所：西原町民陸上競技場  
期間：1月23日～1月29日 (2次キャンプ：7日間)  
場所：恩納村赤間運動公園サッカー場
  
4. 名古屋グランパス (J1) <選手・参加人数 約60名>  
期間：1月10日～1月20日 (1次キャンプ：11日間)  
場所：南風原町黄金森公園陸上競技場  
期間：1月23日～2月4日 (2次キャンプ：13日間)  
場所：南風原町黄金森公園陸上競技場
  
5. 浦和レッズ (J1) <選手・参加人数 約60名>  
期間：1月11日～1月29日 (19日間)  
場所：金武町フットボールセンター
  
6. サガン鳥栖 (J1) <選手・参加人数 57名>  
期間：1月15日～2月4日 (21日間)  
場所：ZANPA プレミアム残波岬ボールパーク



7. 川崎フロンターレ (J1) <選手・参加人数 約 55 名>  
期間：1月15日～1月21日 (1次キャンプ：7日間)  
場所：恩納村赤間運動公園サッカー場  
期間：1月24日～2月4日 (2次キャンプ：12日間)  
場所：西原町民陸上競技場
8. ガンバ大阪 (J1) <選手・参加人数 約 55 名>  
期間：1月16日～1月31日 (16日間)  
場所：中城村吉の浦公園ごさまる陸上競技場
9. 京都サンガ F.C. (J1) <選手・参加人数 約 55 名>  
期間：1月16日～1月28日 (13日間)  
場所：八重瀬町東風平運動公園サッカー場
10. ベガルタ仙台 (J2) <選手・参加人数 約 50 名>  
期間：1月13日～1月26日 (14日間)  
場所：糸満市西崎陸上競技場
11. FC町田ゼルビア (J2) <選手・参加人数 約 60 名>  
期間：1月16日～1月23日 (8日間)  
場所：うるま市具志川運動公園多種目球技場
12. V・ファーレン長崎 (J2) <選手・参加人数 約 55 名>  
期間：1月17日～1月28日 (12日間)  
場所：読谷村陸上競技場
13. 大宮アルディージャ (J2) <選手・参加人数 約 50 名>  
期間：1月18日～1月23日 (1次キャンプ：6日間)  
場所：西原町東崎公園サッカー場  
期間：1月24日～2月1日 (2次キャンプ：9日間)  
場所：うるま市具志川運動公園多種目球技場

14. ジェフユナイテッド市原・千葉 (J2) <選手・参加人数 53名>  
期間：1月23日～2月5日 (14日間)  
場所：南城市陸上競技場
15. 水戸ホーリーホック (J2) <選手・参加人数 約45名>  
期間：1月26日～2月5日 (11日間)  
場所：豊見城総合運動公園陸上競技場
16. ザスパクサツ群馬 (J2) <選手・参加人数 46名>  
期間：1月29日～2月5日 (8日間)  
場所：八重瀬町東風平運動公園サッカー場
17. 三菱重工浦和レッズレディース (WEリーグ) <選手・参加人数 約40名>  
期間：2月14日～2月19日 (6日間)  
場所：金武町フットボールセンター
18. 大宮アルディージャ VENTUS (WEリーグ) <選手・参加人数 約35名>  
期間：2月14日～2月19日 (6日間)  
場所：八重瀬町東風平運動公園サッカー場
19. FCふじぎくら山梨 (なでしこリーグ) <選手・参加人数 約30名>  
期間：2月16日～2月20日 (5日間)  
場所：南城市陸上競技場
20. 慶應義塾大学男子サッカー部 <選手・参加人数 35名>  
期間：2月20日～3月3日 (12日間)  
場所：沖縄県総合運動公園蹴球場、金武町陸上競技場
21. 城西国際大学サッカー部 <選手・参加人数 47名>  
期間：2月26日～3月5日 (8日間)  
場所：沖縄県総合運動公園蹴球場、金武町陸上競技場

22. 札幌大学サッカー部<選手・参加人数 25名>  
期間：3月5日～3月12日（8日間）  
場所：金武町フットボールセンター
23. 慶應義塾大学女子サッカー部<選手・参加人数 25名>  
期間：3月12日～3月16日（5日間）  
場所：沖縄県総合運動公園蹴球場
24. 日本体育大学サッカー部<選手・参加人数 35名>  
期間：3月9日～3月16日（8日間）  
場所：八重瀬町東風平運動公園サッカー場

### 3. キャンプ地の情報発信について

#### □ サッカーキャンプ ガイドブックの作成

県内への誘客を目的とした「沖縄サッカーキャンプガイドブック」。

前述の通り、昨年度までは新型コロナの影響で制作後の配布を自粛する形となったが、今年度は県内各所へ3年ぶりに配布を実施。

県内外からの問い合わせも多く、サッカーキャンプHPからもガイドブックデータをダウンロード出来るよう行った。

制作の過程では各自治体や実施クラブ側にも協力いただき、観光スポットや実施クラブの見どころなど、充実した内容のガイドブックが完成した。

発行部数 50,000部





□ サッカーキャンプ公式 WEB サイトでの情報発信

今年度もサッカーキャンプ公式 WEB サイトを通し、日々のキャンプ情報を更新していった。3年ぶりの有観客開催ということもあり、ガイドブックのダウンロードや市内の観光情報を更新。

また歓迎セレモニーの様子など、動画配信も実施した。



LATEST NEWS

- 2023年02月05日  
トレーニングマッチ 結果(2月5日実施)
- 2023年02月04日  
トレーニングマッチのお知らせ(2月5日実施予定)
- 2023年02月04日  
トレーニングマッチ 結果(2月4日実施)
- 2023年02月03日  
トレーニングマッチのお知らせ(2月4日実施予定)
- 2023年02月01日  
トレーニングマッチ 結果(2月1日実施)

SPECIAL MOVIE

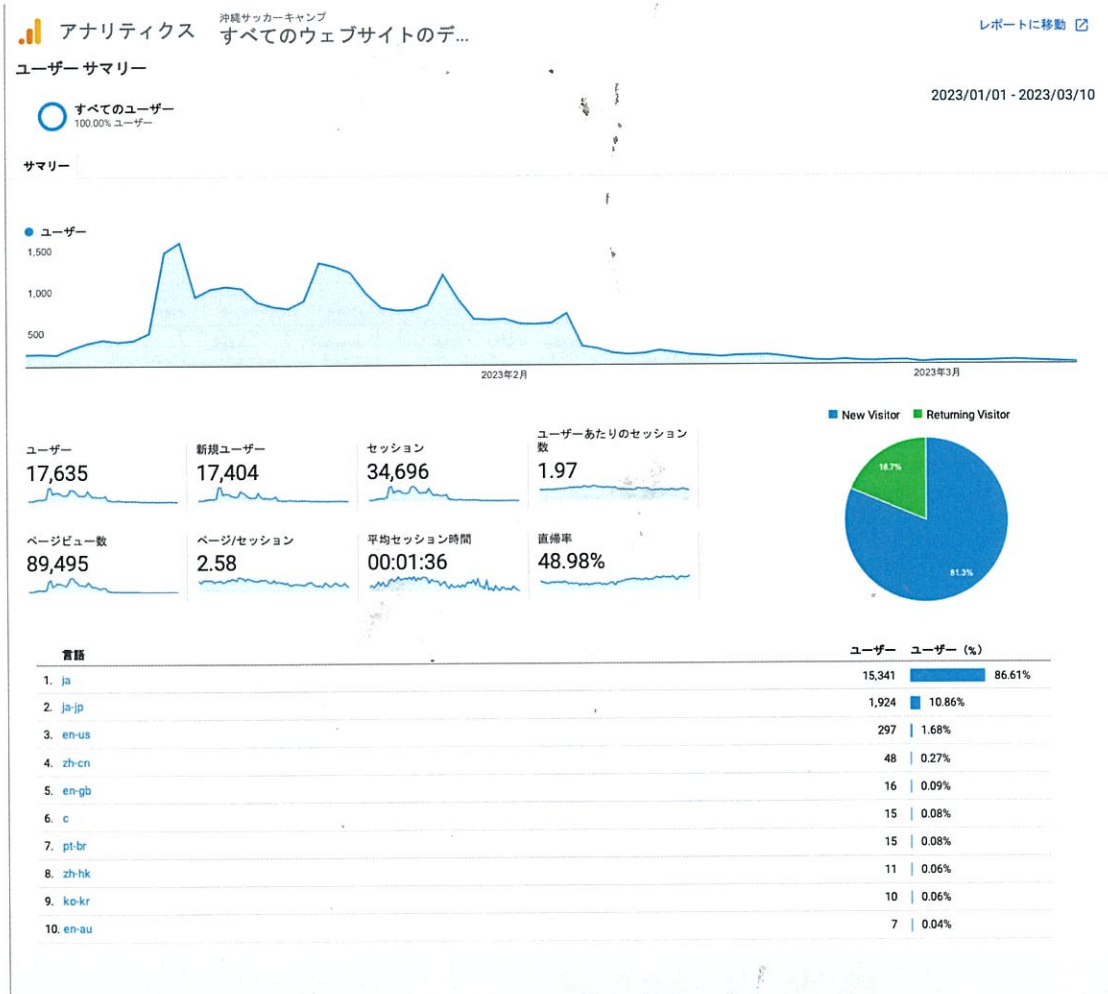


<p>食べる eat</p> <p>もっと見る</p>	<p>ico.Cafe (いこカフェ)～ studio &amp; cafe ～ 〒901-1206 南城市大聖寺1161-1</p>	<p>観る・遊ぶ・買う sightseeing</p> <p>もっと見る</p>	<p>琉球ガラス 匠工房 〒904-0413 国頭郡恩納村富集1448-1</p>
	<p>カフェくるくま 〒901-1513 南城市知念字知念1190</p>		<p>おんなの駅「なかゆくい市場」 〒904-0415 国頭郡恩納村仲辺1656-9</p>
	<p>沖縄そば 峰 〒901-0605 南城市玉城中山310-1</p>		<p>タイガービーチリゾートクラブ 〒904-0413 沖縄県国頭郡恩納村字富集1550番地1 ホテルモントレ沖縄 スパリゾート 内1Fマリカウター</p>
	<p>洋風料理店 ビストロブーケ 〒901-1505 南城市知念字久原435-2</p>		<p>美らオーチャードゴルフ倶楽部 〒904-0402 国頭郡恩納村安宣道1577</p>

＝公式サイト 閲覧状況について＝

公式サイトの閲覧状況について 2023 年 1 月 1 日から 3 月 10 日までの統計、検証を行った。結果、17,635 名が閲覧、そのうちの 90%以上、17,404 名が新規でアクセスしたユーザーとなる。

データを見ると 1 月から Jクラブが完全にキャンプを終えた 2 月上旬まで閲覧数が伸びているのがわかる。



またアクセスは圧倒的に携帯（スマホ）が多く、続いてデスクトップ、タブレットの順になる。



#### □ キックオフイベント（PR イベント）の実施

今年度はサッカーキャンプ実施の記者会見を兼ねたPR イベントを初めて開催した。記者会見には実施会場でありキャンプの受け入れ市町村でもある豊見城市からも市長が参加。

また会見後は、サッカーに明るい芸人のパンサー尾形氏を招いてのトークショーを行い、県内外の方々へサッカーキャンプ会場への来場を呼びかけた。

三連休明けの平日昼間ということもあり、集客面に不安はあったが、会場には多くの見学者が訪れ、サッカーキャンプの機運醸成を図ることができた。

#### 【イベント名称】

OKINAWA SOCCER CAMP 2022 キックオフイベント

#### 【日時】

2023年1月10日（火）14:00-16:00

#### 【会場】

イーアス沖縄豊崎





□ PR ブースの設置

【実施期間】2023年1月17日-1月24日

【会場】イオンモール沖縄ライカム2階アクアEV横(A)

令和元年度に那覇空港で実施したサッカーキャンプPRブース。

今年度は3年ぶりの有観客開催ということで、県内の大型ショッピングセンターでPRブースを設置した。

令和元年度は実施クラブのユニフォームの展示、ガイドブックの配布等を行ったがこの形は他県のキャンプ地でも同様に行われているため、今年度は違いを見せるために、実施クラブに協力をいただき、全選手のサイン入りユニフォームを展示した。



□ モノレール車内を活用しての広告

【実施期間】2023年1月13日-1月19日

【広告掲載場所】モノレール車内中吊りポスター(広告サイズ:横950mm x 縦230mm)

今年度はモノレール駅でのガイドブック配布だけではなく、車内広告も実施。

県外から来沖したサポーターや観光客がSNSを活用して拡散するなど、沖縄をサッカーキャンプの地として、より認知させることが出来た。



□ 市町村情報番組の制作

昨年度に引き続き自治体から希望のあった情報番組の制作を行なった。コロナウィルスの影響により有観客の実施が不透明な中、県外で放映することによって将来的なサポーターの誘客を目的として製作したが、紹介した自治体から喜びの声も多く、今年度も引き続き制作。

読谷村、金武町、石垣市の紹介番組を制作し、県内外で放映。

また映像素材は各自治体へ2次使用の権利を与え、番組放映後はそれぞれの SNS など発信媒体でも活用してもらうこととした。





4. サッカーキャンプ誘致における経済効果算出について

令和4年度サッカーキャンプの経済波及効果（速報値）

（沖縄サッカーキャンプ 2023）

2023年1月10日～3月16日に期間に沖縄県内で実施されたサッカーキャンプの経済効果を試算した。県のサッカーキャンプ誘致事業による経済効果は、クラブチームによる各種支出とキャンプ見学観光客による消費支出の区分により設定した。選手及びスタッフは24チーム1,163人となり、平均宿泊日数は13日となった。

チーム誘致関連経費

	支出額(円)
球回経費	413,457,632
その他消費	70,905,818
施設関連経費（施設使用料等）	7,819,751
選手・スタッフ個人による消費	55,329,753
合計	547,512,953

観光客による需要増加額

	支出額(円)
宿泊費	230,260,620
交通費	80,985,600
土産・買物費	109,632,850
飲食費	135,257,200
娯楽・入場費	65,315,730
その他	22,179,650
合計	643,631,650.0

直接効果はサッカーチーム誘致に伴う宿泊費及び運営費、施設整備等（施設使用料等）支出が約5億4,751万円、キャンプを見学に訪れた観光客による支出は6億4,363万円となり、合わせて約11億9,114万円が直接効果となった。

以上の直接効果により、経済波及効果は以下の通りとなった。

単位：円

	キャンプ効果	観光効果	効果の合計:A	2020年の効果:B	A/B
直接効果	547,512,953	643,631,650	1,191,144,603	1,908,177,245	62.4
付加価値額	113,276,454	113,276,454	226,552,907	1,004,928,320	22.5
雇用者所得	54,491,471	65,891,510	120,382,981	546,360,055	22.0
域内需要増加額	246,984,299	299,678,286	546,662,585	588,288,755	92.9
1次効果	323,447,966	396,476,574	719,924,540	790,697,920	91.0
2次効果	77,372,578	88,856,857	166,229,435	657,647,727	25.3
総効果	948,333,497	1,128,965,081	2,077,298,578	3,356,522,892	61.9

2023年のサッカーキャンプによる経済効果は約20億7,730万円となった。新型コロナウイルス感染症の影響がなかった2020年と比較すると直接効果は62.4%（19億800万円）、総効果は61.9%（33億5,652万円）と6割程度の回復となった。海外のクラブチームの参加は、今年度はなかった。

以上

## 10. 総括

今年度のサッカーキャンプは3年ぶりに有観客開催となることから29チーム以上の誘致、そして積極的な情報発信を図り取り組みを行ってきた。

しかしながら多くのクラブの希望日程が重複したことや、昨年度から続く受け入れ施設減の影響もあり目標の29チームには及ばない24チームの実施に留まった。

事務局として昨年度誘致が実現出来なかった石垣市へのキャンプ誘致や、那覇空港発着の就航路線を活用した新規クラブの誘致が実現出来なかったことは非常に残念な結果となった。

ただ、そういった中でも実施にあたって事務局からの依頼に臨機応変に対応していただいたクラブや自治体の協力もあり、久しぶりに賑わいのある有観客でのキャンプシーズンとなったことは喜ばしく、トレーニングマッチも昨年度の30試合から大学生も含め90試合以上実施できたことは、やはり試合を楽しみにしている観客や実際にプレーしている選手たち、両方にとっても大変良かったと感じる。

また今年度は新型コロナの陽性者も実施クラブから発生することもなく、怪我人の医療対応もスムーズにいき、クラブからは満足いく声をたくさんいただけた。

但し、近年の宿泊費用（主に食事代など）の高騰から実施したクラブからも「予算的にだいぶかかっている」「他県では支援金を出している」といった声も上がっているので、次年度以降の受け入れ体制について関係団体による「受け入れ体制」についての協議が必要と感じる。例として他県のように金銭的支援を県、または市町村単位で行うのか。また意見交換会の議題でもあがったキャンプの早期決定について、キャンプ事務局（沖縄県）、各市町村、どこが主導権を握って決定するのか。既存のクラブ優先で正式な日程決定が遅くなった場合、早くから沖縄キャンプ実施に向けてアプローチしてきた他のクラブの対応をどうするのか。受け入れ団体の共通認識を持つ必要がある。

そして「サッカーキャンプ誘致戦略推進事業」が「誘致から誘客」へと大きな転換期を迎えてきている中、観光促進とクラブの充実したキャンプ実施の両方に加え、安心・安全な受け入れ環境を追い求めながら「沖縄サッカーキャンプ」を今後さらに拡大・発展させるためには、より関係者の方々の協力・連携、そしてそれぞれの立場における理解すること。特に前述の通り、共通認識を持つことが必要になってくる。

今年度もキャンプの受け入れに尽力していただいた関係者の皆さま、そして沖縄サッカーキャンプの円滑な実施の為に協力していただいた各クラブの皆さまに感謝したい。



令和4年度 サッカーキャンプ誘致戦略推進事業  
実施報告書

発注者：沖縄県文化観光スポーツ部 スポーツ振興課  
〒900-8570 沖縄県那覇市泉崎 1-2-2

受託業者：サッカーキャンプ誘致戦略推進事業共同企業体

代表法人：沖縄S V株式会社  
〒901-0225 沖縄県豊見城市豊崎 3-59 トヨプラ 311 号

株式会社アドスタッフ博報堂  
〒900-0015 沖縄県那覇市久茂地 3-17-5 美栄橋ビル



 株式会社 アドスタッフ博報堂

令和5年3月発行

